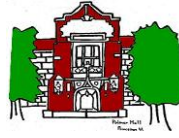


# ななかま

## プリンストン日本語学校新聞



平成24年度 No.29号

平成24年12月9日

文責 長尾重範



明星も 遠のいていく 年の暮れ  
倒木の 石を食む根の 寒々と

学芸会 (12:00~13:30)

学習発表会 (13:40~17:00)

### 行事予定表

12月16日	12月の最終日 秋祭り
1月6日	書き初め 文部科学省国際教育課長視察
1月13日	書き初め Pコース・高等部入学説明会
1月20日	書き初め(幼稚部) 書き初め展示会

### プライバシー保護のために

本校には日本語を学ぶ多くの方が通っていますので、互いに気遣いは欠かせません。一人ひとりが気持ちよく安心して学んでいただくためには、お互いに最低限の礼儀を必要とします。

学芸会・学習発表会に関わって(劇等のDVDは販売されますが)、わが子の写真を撮りネット上で公開することなどがある場合に、他の人の肖像が載ることについては、細心の注意をお願いします。小さな気配り・注意が大きなトラブルを回避することに繋がります。

### 書き初めについて

本校では恒例の書き初めを1月6日と13日に行います。わずか1時間ほどではありますが、書道に親しむ重要な機会として、位置づけています。

今年度は年度当初には計画していなかった学年(小3~小6)も、日本の学習指導要領(書写)に合わせて、毛筆を指導することにしました。そのことについてご理解を頂きますようお願いいたします。小1と小2は従来通り硬筆指導を行います。

毛筆指導計画は次の通りです。

1月6日の1・2校時はJASL、プリ小1、3・4校時はプリ中高、中3、高校です。1月13日の1・2校時は中1中2、小3小4、3・4校時は小5小6、プリ小です。

保護者の皆さまにはご負担をかけますが、1・2時間目のクラスは**ブルーシート敷き**を、3・4時間目のクラスは**その片づけ**のご協力をお願いします(使用教室は302と210です)。

全家庭で用意頂くのは新聞紙です。筆などをお持ちの場合はご用意ください。

### 心シリーズ(4)「心の構造」

精神分析の父と言われるフロイト(1856-1939)は、心を科学的に分析した初めての科学者(医者)です。彼は心が三つの部分に分かれていると考えました。その考えは簡単に表すと次のようです。三つの部分とは、超自我(Super Ego)と自我(Ego)、潜在的な欲望(Id)です。親や社会の圧力(超自我)は個人の内面の潜在的な欲望(Id)を押さえつけようと働きます。自我(Ego)は周りのできごとに対応し、超自我と潜在的な欲望のバランスをとろうとします。このように心を科学的に分析することは当時においては画期的なことでした。

その後、心を分析的に理解する方法が、多くの学者によって考えられるようになりました。さらに今日では、心の病いに対して、薬による治療法が大きく進歩し、多くの精神的な病いが投薬によって改善できるようになってきています。

近年の脳科学の長足の進歩によって、脳のどの部分が記憶や思考や判断を司っているかが明らかになっていきました。このような研究が進めば、病いの治療方法も大きな進歩を遂げることになるでしょう。

私たちは、日常生活さえうまくできなくなるような重篤な心の状態になる場合があります。例えば、日本の中学校では30人に1人の割合で起きているといわれる不登校も、当事者にとっては大変深刻なことです。登校時間になるとお腹が痛くなったり嘔吐したり体が動かなくなったりすることもあります。家族に不幸があったり、いさかが増えると気持ちが持ちこたえられなくて変調をきたすこととなります。逆に、自分や周りによいことが続いたりすると気持ちが高揚感がみなぎることもあります。

このように、自分の心を支配することは容易ではなさそうですが、いつも五里霧中の状態にいるよりは、少し斜め上から自分を眺められるような心の状態のほうがよいことはわかります。日常の心の状態を客観視することは容易ではないのですが、分析的に自分の心を見つめることは、次のよりよい自分を構築するために役立ちそうです。

自分の行動を最終的に決定する心とはどこにあるのでしょうか。そしてその心は、どんな条件によって決定を可能にしているのでしょうか。難しい問いですが、ぼんやりではなくはっきりと、自分をとらえることは次の飛躍のために大切でしょう。自分を、距離を置いて見つめることが、その第一歩になると思います。堂々巡りの自分ではなく、分析的に冷静に見ることができるならば、身の回りに起きる多くのつまづきが少し回避できるかもしれません。